

課題

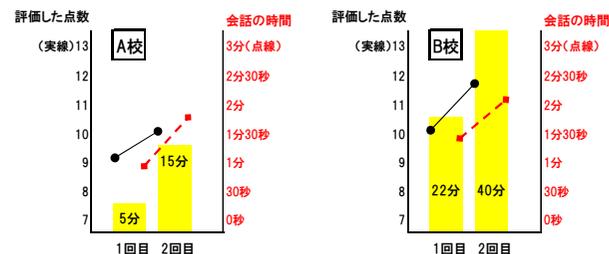
中学校における課題は授業内の言語活動の時間が少ないことである。原因として、数値による効果測定とそれに基づいた客観的な課題把握やフィードバック等ができていなかったことが考えられる。課題解決に向けて、数値による効果測定を行うことで、教員の意識改革に取り組みたい。また、研究会組織・教科会の活性化や、小中で連携し外国語教育にチームとして取り組む体制の強化も併せて行う必要があると考える。

具体的な取組と工夫

■ 中学校英語教員の授業内での言語活動の時間測定と、生徒の英語運用能力測定

授業をビデオ撮影し、生徒3人一組になり、3分間自由に英語でやり取りを行うパフォーマンステストを実施。その後、授業及びパフォーマンス評価の映像を見ながら、授業改善、言語活動の充実のための研修を行った。生徒の英語運用能力がどの程度変化しているかを調べるため、12月にもう一度授業のビデオ撮影とパフォーマンステストを行った。その結果が右のグラフである。

黄色の棒グラフが50分授業の中で言語活動を行っている時間。黒い実線グラフがルーブリックに基づき採点した平均値。赤い点線グラフが、3分間のパフォーマンステストの中で英語を話していた時間である。



■ 教員研修

小学校、中学校ともに授業改善に活かせるように、数回の研修会を実施。パフォーマンス評価の活用方法や定期テストの作成方法に特化し、自分が作成したテストを振り返り、他教員が作成したテストを共有するなど質の向上を目指した。

■ 小学校でのCAN-DOリスト作成と外国語クイズでの経年比較

文字定着と情意面との相関を計るとともに、指導の妥当性を測定するため、小学校において、文字定着の状況調査(テスト)を実施し、文字の定着度と文字定着を目的とした学習に対する児童の情意面を計り、指導との関連性を調査した。



言語活動と英語運用能力の関係を示したグラフ

成果

■ パフォーマンステストを通して、授業における言語活動の時間と生徒の英語運用能力について明らかな相関関係があることがわかった。代表4校の授業動画や生徒の変容を共有し、教員の授業力向上に役立てるとともに、言語活動の充実に向けての効果的な教材ができた。

■ 作成した小学校のCAN-DOリストの活用や研修会の実施、参考本の配布を通じて、各小学校での定着に向けた取組や、言語活動の充実がみられた。

課題及び改善案

■ 作成した小学校のCAN-DOリストや小学校外国語で作成した成果物などを活用し、小中連携を強化したい。また、今年度はコロナ禍のため実施できなかった小中の授業参観や模擬授業、7年間を見通したカリキュラムの作成などを推進したい。

■ 英語研究会・校内教科会の活性化がまだ進んでいないため、チームでの授業の互観や、教材の共有をさらに進めていきたい。